

トライアングル

発行日／令和2(2020)年8月 発行／一般社団法人 大阪知的障害者福祉協会 発行責任者／松上利男 編集／松嶋桂子
〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館内
TEL 06-6763-3785 FAX 06-6763-3759 E-mail osaka-chifukukyo@giga.ocn.ne.jp

新型コロナウイルスとの共存・今後の対応策について ～アンケート結果から見る社会福祉施設の現状と課題～

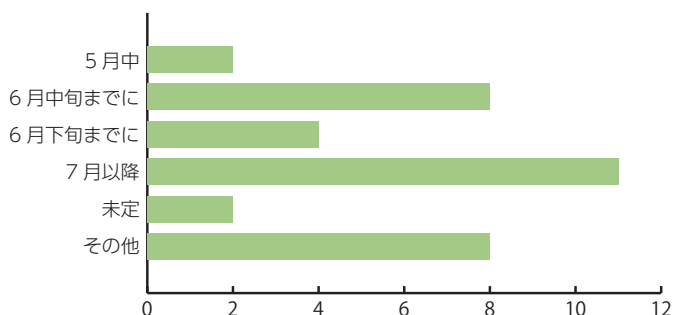
5月25日に緊急事態宣言が解除されましたが、7月に入ってもなお感染者数が増加しています。このような状況の中、各事業所では社会情勢に応じた対策を模索し、判断を委ねられながら対応をしている現状です。

そこで、大阪知的障害福祉協会では、「障害者支援施設部会」「日中活動支援部会」「生産活動・就労支援部会」によるアンケートの実施、「地域支援部会」で意見交換を行いました。

11のアンケート項目から、「外出再開予定日」「面会の方法について検討されていること」「嘱託（協力）医師との連携」に着目してまとめました。

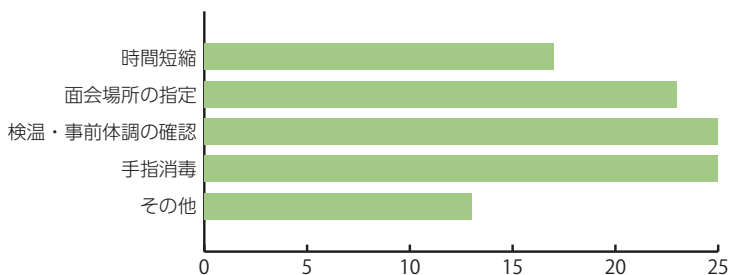
アンケート結果を通して感じたことは、1つ目は多くの事業所が外出や面会、外泊を徐々に行っているとのことでしたが、医療的な対応が確立していない状況の中で、本当に行って良いのか、マスクの着用や手洗いを拒むなど利用者の障害

【外出再開予定日】（回答数＝33）



その他の内容……通院を除いて当面不可にしている／緊急事態宣言の解除に合わせる／個別施設で判断するべきか迷っている／人が集まる場所は避け近隣の公園程度／3密を避けての外出を検討中／他傷・自傷・大きな不調をきたす方のみ外出／6月1日より緩和／交通機関を使わずに近隣に買い物程度

【面会の方法について検討されていること】（回答数＝33）



その他の内容……マスク着用（2件）／人数の制限・飲食無し／食品の持ち込み禁止／デジタル面会（堺市がタブレット貸与）（2件）／インターネットを利用したビデオカメラ通信／Zoom等ネットを利用したweb面会／Zoom等の活用を検討／個別施設で判断するべきか迷っている／他傷・自傷・大きな不調をきたす方のみ外出／現在和歌山県では県より外部入館禁止指示／未定

特性により、感染のリスクに対する不安を拭えない現状があるという点でした。

2つ目は、感染対策を講じて対応しているが、世間の緩みが職員を含む施設関係者にも波及してしまい、施設内での感染発生リスクが高まることへの不安を感じている事業所が多かった点でした。

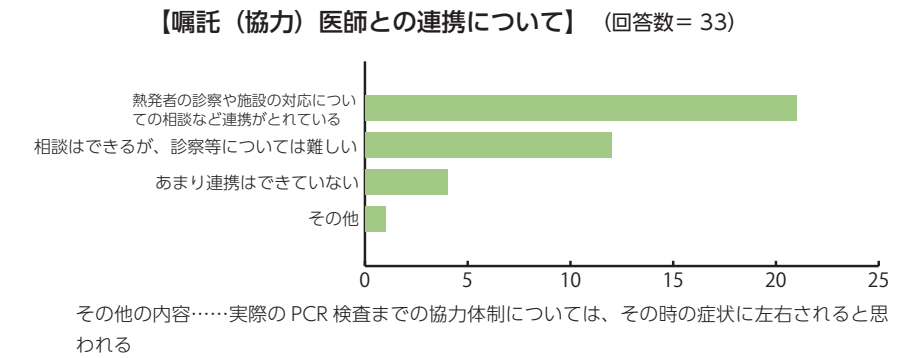
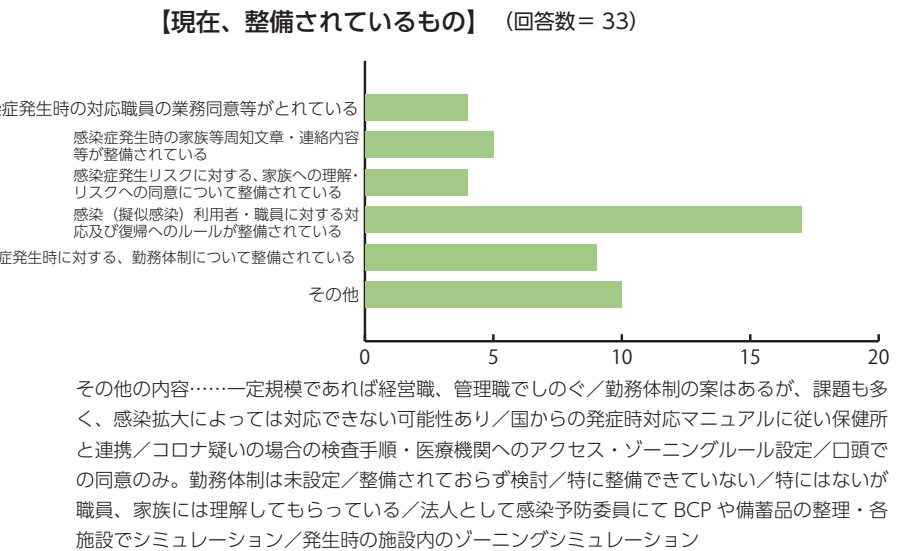
3点目は、発熱者の診察や施設の対応についての相談など連携が取れているが、クラスターへのリスクは絶えずある状況であり、油断できない現状であるこ

● 支援施設部会アンケートより ●

入所施設の状況

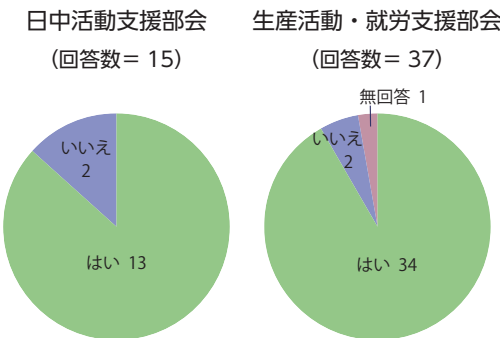


とを改めて痛感した点でした。
このような状況の下で、今後
起こりうるかもしれない第2
波・第3波に備えた際、利用者
の感染予防と日常の生活を守る
ことに追われる日々であり、見
通しが立たない現状に不安を感
じています。各事業者が対策を
模索しながら対応している現状
ですが、国・自治体・社会福祉
施設が一体となって、ガイドラ
インの構築が急務だと感じてい
ます。



●日中活動支援部会、生産活動・就労支援部会アンケートより●通所施設の状況

【利用者、職員が罹患した場合、法人全体若しくは事業所で対応方針が決まっているか】



「家族より地域生活支援事業（居宅での移動支援、短期入所）等自宅での過ごし方で困っている相談はありましたか？あればどのような相談内容ですか？」（日中活動支援部会）

日常生活が失われたことで、短期入所サービスを利用することが出来なくなり、自閉傾向の強い利用者などは、予定変更を受け入れることが出来ずに混乱が生じてしまったり、やむを得ず日中事業所で宿泊をしていたくといった制度から外れた対応をせざるを得ない状況の事業所もありました。

また、移動支援、短期入所、日中一時利用が出来なくて困っている相談ケースがほとんどであり、本来の福祉サービスの在り方が崩れてしまった事

が大きな課題と伺えました。
【在宅サービス提供として、どのように工夫をされていますか？（生産活動・就労支援部会）】

新型コロナウイルス感染症の正しい理解を優先的に、ご家族への周知、職員への周知、利用者の協力など、できる限り日常生活を維持するために、感染防止策を実施しながらサービス提供をされています。例えば、毎朝の電話連絡や週1回程度の訪問を行い、体調確認や健康状態、精神面での不安がないか支援をされています。また、通所見合わせの方や在宅を希望する方については、分かりやすい見本や説明書を一緒に作業を届けたり、自宅でできるドリルや訓練教材を配布している事業所もありました。

各事業所の取り組みは様々で、工夫をしながら日常の支援を提供している事が分かりました。

【利用者、職員が罹患した場合の対策について】＊抜粋。文は広報委員が整えました。（日中活動支援部会）

・保健所の指示に従う。
・感染者対応と、その他に分かれての支援を行い、職員の宿泊棟も確保をする。
・職員の感染が疑われる場合も含め、休業補償の申請も可とする。

・37℃以上の発熱（咳、倦怠感を含む）のある利用者・職員（家族含）は、基本3日間休みをとってもらう。職員に関しては、特休扱いにする。
・独自のガイドラインを設け周知。新型コロナウイルス対応マニュアルを作成し周知をする。
〈生産活動・就労支援部会〉

・大阪府、大阪市の方針に基づいた対応を行う。

・厚労省事務連絡に基づき、BCP計画を定め基本基準を設けている。
①情報共有 ②消毒・清掃などの実施 ③濃厚接触が疑われる利用者と職員の特定 ④濃厚接触疑いの利用者への対応 ⑤濃厚接触職員への対応。
・法人内の事業所1つを、罹患された利用者専用として使用する。
・自宅で37・5℃以上の発熱の場合は利用停止。作業所内での場合は、送り届けるかお迎えを要請する。職員の場合は自宅待機。罹患した場合は、本人から法人事業所へ報告、法人事業所から各市町村・保健所へ報告、指示に従う。

・1人でも罹患した場合は、最低2週間は休業をする。濃厚接触者やその家族の場合は自宅待機をする。（広報委員 吉岡 裕幸）

〈グループホーム分科会〉
感染（疑い）事例
・38度以上でも、病院受診やPCR検査を受けない事あり。
・38度以上、通所先から利用拒否。2週間の自宅待機。
・職員家族に渡航歴があり、職員に2週間休んでもらった。
緊急事態宣言中の生活、利用者への配慮
・完全個室なので、コロナの対応が

しやすい。
・コロナの影響で、通所先の仕事が多くなった。
・利用者の理解、受け入れの難しい人が多かった。
・熱発のある利用者には、自宅で静養してもらった。
・行事やガイドヘルパーが中止になったことで生じるストレスのケア。
・不安の強いスタッフに対するケア。

・食事中の座席配置、アクリル板の設置。
新型コロナウイルスにおける、事業継続の配慮
・行事関係は秋まで中止。
・実習生の受け入れ中止。
・クリアファイルで壁づくり。
・2週間分の備品を準備。
・見守りカメラを導入。
・空気清浄機の導入。
・衣類洗濯用に乾燥機の導入。

茨木学園では……………

利用者、職員の毎日の検温の実施や消毒を行っています。そして利用者の外出・外泊・面会等の一時中止。今年度の家族参加行事を中止。
職員の外出等の自粛や、公共交通機関での出勤時には、マスク着用の徹底等に対応しています。

利用者は楽しみにしていた外出・外泊等を制限される事により、ストレスがたいへん溜まっていました。ストレスを軽減する為に、何か別の楽しむ方法がないかを職員で考えました。

外泊が出来ない利用者は、施設内の公衆電話で電話掛けを実施して家族さんも喜んでいました。また、昔ながらの「黒ひげ危機一髪」や、将棋等のボードゲームを新たに購入。通信カラオケを導入して室内での遊びを充実する事で楽しく過ごす事が出来ています。

外出で映画館に行っている利用者が多かったため、ポップインアラジンというプロジェクト付きのシアタリングライトを導入しました。大画面での映画鑑賞や、利用者のニーズに合った様々な動画を投影出来るようになりました。毎日、利用者からリクエストが殺到します。

こんな時だからこそ、利用者の気持ちに寄り添い、新たな楽しみを見つける事が出来たと感じています。（広報委員 高原 良太）



さつき園では……………



感染症予防として、普段から就業後に次亜塩素酸ナトリウム希釈による館内掃除や利用者検温測定、ケア時の手袋着用などの取り組みはありましたが、新型コロナウイルス感染症後は職員出勤時の検温測定、職員行動記録、送迎時利用者への手指アルコール消毒、館内・室内の換気、給食時・なかまの会（利用者自治）の座席や内容変更など、三密にならないよう対策をしています。課題として、作業室内や送迎など全ての場面で三密を防ぐ事が難しい現状があります。（広報委員 吉岡 裕幸）

第一・第二はばたき園では……………

はばたき園は、福祉型児童発達センター（第一はばたき園）、医療型児童発達支援センター（第二はばたき園）です。親子通園を軸とした療育を基本とし、単独通園も実施しています。

今回のコロナウイルスへの対応としては、市の方針により5月末まで休園となりました。6月以降は登園人数を調整し、週1日登園、週2・5日登園、全日登園と、段階的に開園しています。

園内では感染対策マニュアルに基づいた対応を行っています。今年は、例年行っていた夏祭りや運動会、プール療育などは中止しました。日々の療育では、各プログラムにおける対応及び配慮事項や考え方を職員で検討し、実施そして、振り返ることを繰り返し行っています。

「療育の本質を見失わず、感染予防に努めていく。」そのバランスを常に考慮し療育をすすめていくことが課題と考えています。（広報委員 溝口 遥）

- ・事務員の時差出勤、ズームでのテレワークの実施。
 - ・職員の行動規範にも気を付けた。
 - ・職員の勤務時、手洗い、うがい、マスク、検温の記録を付けている（訪問者も）。
 - ・職員へのコロナの手当て。
 - ・ダブルワーク職員への対応。
 - ・美容師だった世話人に、利用者の髪を切ってもらった。
- 不安要素**
- ・備品（マスク、消毒液、ゴム手袋、体温計、トイレトペーパー、防護服）の不足。
 - ・第二波が心配。
 - ・食事中が密になりやすい（時間をずらす、居室で摂る）。
 - ・マニュアル化しているが、トレーニング等には至っていない。
 - ・感染者が出た時の対応について、十分な検討が出来ていない。
 - ・利用者の外出に行けないことからの精神的な不調。運動不足。
 - ・職員の精神的なダメージが大きかった。
 - ・緊急事態宣言が解除されたが、ガイドヘルパーの外出での行き先に困る。
- 世話人**
- ・自身の身を守る意識のある人、そうでない人との格差が出た。
 - ・自分がコロナをうつすかもしれないという精神的なしんどさで辞める方がいた。
 - ・休日、ホームで過ごす見守り支援のための職員配置に苦慮。
- 〈短期入所分科会〉**
- 感染（疑い）事例**
- ・ガイドヘルパーの職員にコロナの疑いということがあった。

- ・派遣職員の家族がコロナに感染。職員には休んでもらった。
 - ・期間中のサービス提供
 - ・シヨートの利用3日前までの発熱等、情報シートを渡して記入してもらっている。
 - ・可能な限り利用を控えてもらった。
 - ・37・5度以上の発熱で利用はお断りした。
 - ・シヨート利用中は、検温を2回実施。
 - ・消毒、手洗いの回数を増やした。送迎後の車両の消毒。
 - ・自粛中は浴槽に入浴剤やレクリエーション等でストレスの緩和を図った。
 - ・緊急事態宣言中、後の短期入所事業実施・再開に向けての**目的**
 - ・目的は設けず、困っていたら受け入れる意向（家族の入院など）。
 - ・国や府の緊急事態宣言等の状況に合わせた自粛、再開を実施。
 - ・ロングシヨートや緊急のケースは受けていた。
 - ・緊急事態宣言解除後、短期入所を再開した。
 - ・シヨート利用前の行動履歴を確認させてもらう。
 - ・第二波が来るときは、利用不可である事を通知している。
- 新型コロナウイルスにおける、事業継続の配慮**
- ・職員へのコロナの手当て。
 - ・備品（マスク、消毒液、フェイスシールド、防護服）の調達、職員の不安解消に努めた。
 - ・BCPの作成と周知。
- 不安要素**
- ・職員が、外部から来所するシヨートステイの利用者の受け入れに対して不安がある。
 - ・利用者が感染した際、どの職員がどのように診るのか。（広報委員 高原良太）

REPORT

近畿地区会議と全国大会を開催

◆令和元年11月25日から26日にかけて近畿地区知的障害関係施設長等会議がホテルアウイナ大阪で169名参加のもと開催されました。シンポジウムでは「生涯にわたる切れ目のない支援サービス供給体制の構築を考える」をテーマに討議を行いました。（写真①）

◆令和元年12月2日から3日にかけて全国児童発達支援施設運営協議会大阪大会がアートホテル大阪ベイタワー・シテイプラザ大阪で参加者310名のもと開催されました。「子どもの「育ち」を考える 新たなマインドセットと児童福祉法から障害児支援の望ましい展開に向けて」をテーマに議論を交わしました。（写真②③）

総会報告

◆今年度の総会は新型コロナウイルスの感染症予防対応により、書面決議とさせていただきます。令和2年6月1日書面表決書による出席者141名で、全ての議案が承認されました。



編集後記

新型コロナウイルス感染症への対応がますます大変な状況となってきました。皆様お疲れのこととお見舞い申し上げます。

さて今号のトライアングルは、福祉協会各部会で集めたアンケート結果から、皆様にぜひお伝えしたいと編集会議で話し合ったものをピックアップして特集号といたしました。なお詳しいアンケート結果につきましては、協会のホームページに掲載する予定ですので、ぜひご覧ください。

ところで今号より、新しい編集委員が加わりました。東大阪市立第一はばたき園の溝口遥さんです。前任の大和川園の杉扶早子さん、ありがとうございました。これからもトライアングルを一層充実させていきたいと考えていますので、応援をよろしくお願いいたします。（広報委員長 松嶋桂子）